

令和4年度青森県協同農業普及事業外部評価委員会における評価結果及び改善策

【普及指導活動の体制】

内 容	評価結果	主な意見等	普及指導活動体制の改善策
普及指導活動の体制	A：6名	1 普及指導の組織体制 ・限られた人数で適切に対応していると思う。(大平委員) ・新規就農者の定着を図り、本県農業の安定・発展を推進していくためにも、普及指導の役割は増していると思われる。今後とも、普及指導の人員体制の維持・充実に努めていただきたい。また、限られた人員が有効に機能するように、市町村、JAなどの関係機関、団体と役割分担、連携強化などを図り、最大限の効果を発揮するよう引き続き努めていただきたい。(森委員)	・青森県協同農業普及事業の実施に関する方針に基づき、市町村やJAなどの関係機関・団体等との連携を図りながら、新規就農者や次代を担う若手農業者の育成・確保に向けた取り組みを進めていく。
		2 普及指導の人員の動向 ・多様化する農業課題への対応を目指した人材配置と育成を図っていただきたい。(吉仲委員) ・指導に時間が割かれることが予測される新規就農者が増加したことを考えると、大変厳しい指導の現場が想像される。その中での人員の配置は妥当である。(蒔苗委員)	・青森県協同農業普及事業の実施に関する方針や青森県「攻めの農林水産業」推進基本方針に基づき、新たな課題に対応した普及指導活動を展開していくための体制づくりを進めていく。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

【主な普及指導計画】

○東青地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
サポート体制の強化による新規就農者の経営力向上 (R 4～6)	A：5名 B：1名	・ 成果が明瞭に現れづらい目標項目と水準であると見受けられた。指導・支援内容と実施（受講）程度を指標化するなど工夫が必要と思われる。（吉仲委員）	・ 対象者毎に新規就農者育成総合対策事業（農業次世代人材投資資金）に係る就農状況確認チェックリスト及びデータベースの指導項目を指標化し、目標の達成に向けて支援を継続する。
		・ 関係機関との連携の程度が資料では判然としなかった。（吉仲委員）	・ 東青地域新規就農者支援会議において、関係機関の役割分担や新規就農者支援のフローチャート等の資料を作成し、関係機関の連携（役割分担等）を明確化し体制の強化につなげる。
		・ 地域の農業者とのつながりをもっととれれば良いと思う。（大平委員）	・ J A 青森各生産部会や青年部への情報提供や農村青少年組織との交流会等の実施により、地域農業者とのつながりの構築を支援する。
		・ 生産技術、経営管理、資金等、分野ごとに行政、関係機関が役割分担及び連携しつつ、新規就農者個々のケースに応じたきめ細かい「伴走型支援」をお願いします。一人でも多くの自立した生産者が育成されることを期待する。（森委員）	・ 新規就農者育成総合対策事業（農業次世代人材投資資金）に係る就農状況確認チェックリスト及びデータベースの活用や青森県農業経営・就農サポートセンターのサテライト窓口として、重点指導カルテの作成、専門家派遣等により、伴走型支援を展開する。
		・ 受入農家等へのコーチング技術研修等、多様な工夫は大変評価できる。（蒔苗委員）	・ 受入農家等を対象とした、コーチング技術の向上を目的とした研修は、県内でも開催事例が少ないことや、雇用者への指導力向上も期待できるため、次年度以降も継続して開催する。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

○中南地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
多様な農業・地域活動にチャレンジする女性農業者の育成 (R 1～4)	A：6名	・起業活動に関心のある女性農業者がすべて起業に結びついていないのであれば、それらの要因や課題等も検討する必要性があるのではないか。(吉仲委員)	・加工等に関心のある若手女性農業者に対しアンケートを行っており、経営状況や家庭環境等により直ぐには起業できない要因等を把握している。今後もアンケート等を活用して、起業に結びつかない要因や課題について検討していく。
		・開発に協力してもらえる企業や店との長期的な連携をしていければ良いと思う。(大平委員)	・新商品の内容や生産量、開発費等について整理した上で、企業や店との連携が可能であれば、有効な手法の一つとして情報提供をしていく。
		・地域資源を活用した地域に根ざした商品、サービスの提供を女性農業者の視点や強みを活かしながら広げていけるよう、関係者が一体となって継続的に支援していただきたい。(森委員)	・これまでも女性農業者の起業内容や課題に応じて関係者と連携しながら支援をしており、引き続き起業の状況に応じて継続的に支援する。
		・伝統食の継承とともに加工機械の継承も重要である。難しいという加工機械のマッチングのヒントは女性起業家たちに任せてみることもかもしれない。(蒔苗委員)	・今年度実施した聞き取り調査で、加工機械を継承したい、または継承してもらいたい女性起業家について整理した。今後は、個別に情報提供をしながら、要望があればマッチングの場を設定するなど対応する。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

○三八地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
地域で支える新規就農者の育成・確保 (R 1～5)	A：6名	・メンター農家の確保やファーマーズマルシェの実施による社会ネットワークがどのように形成されているのか、指導対象へヒアリング・アンケートなどの結果も成果指標に加えることが必要ではないか。(吉仲委員)	・研修受入先農家は、農業経営士や青年農業士のうち対応可能な者に担ってもらうほか、市町村の振興作物を指導できる認定農業者に対し、県民局が市町村とともに働きかけて、受入先を増やしており、この取組への支援は継続する。 ・マルシェの実施に向けて、先進地調査参加者など意欲的な農業者を発起人とした実行委員会を組織し、定期的に打合せを行った。また、新規就農者等への出店者募集は市町村を通じて行っているほか、イベント開催時には実行委員の伝手で飲食店にも出店してもらった。この取組も支援を継続する。 ・研修会参加者へのアンケートやチャレンジ農場担当者へのヒアリングの結果は、次回の研修会や次年度実証内容を企画立案する実務で活用している。経年で比較する成果指標には加えない。
		・農地の情報を知らずに活用できない人もいるのでJAや農業委員との連携を密にしていた方が良いと思う。(大平委員)	・農地情報は、就農相談や巡回指導時に、就農地の農業委員会と連携し情報提供している。今後とも支援を継続する。
		・生産技術、経営管理、資金等、分野ごとに行政、関係機関が役割分担及び連携しつつ、新規就農者個々のケースに応じたきめ細かい「伴走型支援」をお願いします。一人でも多くの自立した生産者が育成されることを期待する。(森委員)	・農業次世代人材投資事業受給者を対象に、市町村、農協等と連携して、毎年、個別に巡回指導を行い、生産技術、経営管理等の課題を聞き取り、個々のケースにあった助言指導をしている。今後も、早期に自立できるよう個別プロジェクトの手法を普及するなど、伴走型支援を継続する。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

○西北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
品種特性を発揮する「青天の霹靂」及び「はれわたり」の高品質・安定生産（R 4～5）	A：5名 B：1名	・出荷基準未達者に対する指導については、当該生産者もさることながら、作付者全体で情報共有できるよう指導体制を構築するべきではないか。（吉仲委員）	・これまでも全作付者を対象に栽培講習会を実施しており、今後も全作付者を対象に普及指導を継続していく。
		・大雨災害があった割には目標が達成できて良かった。次年度は出荷基準を達成できなかった人を対象に多く指導していければ良いと思う。（大平委員）	・次年度は、出荷基準未達者の生産履歴を「青天ナビ」で確認しながら、生産者に応じた重点指導を行っていく。
		・西北地域「青天の霹靂」、「はれわたり」生産指導PTを中核とした生産指導を行いつつ、青天の霹靂の生産者の中には栽培のポイントに精通された生産者もいると思われるので、こういう方々からのアドバイスが日常的に行われる環境を作るなど、新規作付者への情報提供のチャンネルが増えるように努めていただきたい。（森委員）	・ベテラン生産者が新規作付者へアドバイスできる環境を整えることは、重要であるため、栽培講習会の中で生産者同士の情報共有ができるよう努めていく。
		・「青天の霹靂」、「はれわたり」ともにその特性があると思うので、開発の背景、取り組みの経緯、生産者の思いなどを地元消費者にできる限り周知・発信していただき、地元のお米として愛着が更に高まるような取り組みを期待する。（森委員）	・県のPR活動に普及指導員も参加して、地元スーパーでの周知を図っている。今後も機会をとらえて、品種特性や生産の状況を発信していく。
		・天候不順により「はれわたり」は成果未達者が多くなったが、来年度は其中で当初導入に不安があった方々への多様な指導がなされていくことを期待する。（蒔苗委員）	・引き続き「はれわたり」の指導拠点ほの収量・品質を確保し、生産者への栽培の要点を指導していく。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

○上北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
栽培基本技術の徹底によるながいも産地力強化 (R 4～5)	A：5名 B：1名	・収量・品質による目標・実績が複数年にまたがるため、評価方法に工夫が必要ではないか。(吉仲委員)	・生産年に収量・品質を評価するためには、坪掘り調査結果や100m掘り調査結果の活用が必要であることから、J Aと連携して、対象者に対し坪掘り調査等への参加・出品を引き続き誘導していく。
		・収量・品質の向上・改善による成績の向上について、専門部会への動機付けが必要になると考えられる。(吉仲委員)	・対象者に対し、栽培講習会等で対象地域の収量・品質の状況を周知し、種子選別や適期追肥等の基本技術の徹底による収量・品質の向上を動機付けする。
		・講習会の参加者が少ないとのことだが、より多くの人が参加できるように調整をしていけば良いと思う。(大平委員)	・J Aからの連絡・周知を徹底し、「ながいもの達人」の技術紹介等、対象者の関心のある講習内容や、参加しやすい実施時期等について検討する。
		・栽培基本技術の指導対象の生産者の講習会、個別指導について、対象者全員が受講、指導が受けられるよう、その実施方法などを工夫して実効ある取り組みとなるよう願います。上北地域のながいも産業の維持・発展のベースの底上げとなる事業なので、関係者一丸となった取り組みを期待する。(森委員)	
		・「ながいもカルテ」の利用や「ながいもの達人」を師匠とした講習会等の活動は今後も広がり期待する。(蒔苗委員)	・今後もながいもカルテや生産技術チェックシートを活用した個別指導や、「ながいもの達人」を講師とした講習会等の開催により、ながいも産地力の強化を図っていく。
		・繁忙期に開催する講習会への参加者が少ないことへの対策強化は必須。有意義な講習会であっても多くの参加者がきてこそ成果が現実となる。参集のための工夫に期待する。(蒔苗委員)	

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要

○下北地域県民局地域農林水産部

課 題 名	評価結果	主な意見等	普及指導計画の改善策
新しい生活様式に対応した「しもきたマルシェ」の確立と販売力の強化 (R3～5)	A：5名 B：1名	・マルシェについて、他地域でも同様の取り組みが見られる。共催なども含め、下北地域内にとどまらない開催形態の模索が必要ではないか。 (吉仲委員)	・地域内イベントへの出張マルシェに加え、コロナ禍前は他地域イベントへの出店も検討されていました。今後は実行委員会での検討を促す。
		・コラボギフトを開発した後も販売や売上げ向上に向けたPRの仕方などを長期的にサポートしていければ良いと思う。(大平委員)	・SNSの活用など、PR方法についてサポートする。
		・下北地域は特色のある祭り、イベント、産物、更には海上自衛隊などの地域固有の資源が豊富にあるので、これらを活かしながら「しもきたマルシェ」の活性化につなげていただきたい。 (森委員)	・出張マルシェとして、「大畑海峡サーモン祭り」や「東通村ドン！とボン・盆フェスタ」などへの参加に取り組んでいる。 ・本年、海上自衛隊から連携について打診があったため、連携方法等について実行委員会で検討を続けている。
		・新商品がいくつか開発されましたが、既存の商品も含め「しもきたマルシェ」おすすめの一品として、マルシェ来場者による投票によりコンテストを実施するなど、「しもきたマルシェ」の認知度向上とマルシェ会員の一体感を醸成するイベントなどに取り組んでみていただきたい。 (森委員)	・SNSなどを活用して、認知度向上についてサポートする。 ・新商品のコンテストについては、実行委員会において検討を促す。
		・今後は「しもきたマルシェ」への参加者を地域外からも呼び込めるような周知方法の多様化と下北ならではの魅力的な内容強化に期待する。 (蒔苗委員)	・SNSを活用して地域外への呼びかけを行っており、下北地域外のみならず、宮城県など、県外からの来場者もいる。 ・チラシ等、既存メディアの活用についても更に検討を促す。

評価区分 A：大いに評価できる B：概ね評価できる C：やや評価できる D：一部改善が必要 E：大幅な改善が必要